

気候変動に伴い、世界中の氷河の融解速度が速くなっていることが新たな研究で判明



氷河は、グリーンランドや南極大陸の氷床に比べて気候変動に対する反応が早い傾向があり、氷河の融解が海面上昇に大きく影響していることが、科学者たちの調査で明らかになった。新しい研究によると、世界のほぼすべての氷河が縮小しており、そのペースは加速している。記事参照：As climate changes, a new study finds the world's glaciers are melting faster - ArcticToday (Arctic Today 2021.4.28)



イヌイット・ヌナングットにおける廃棄物管理には大きな見直しが必要であるとオーシャンズ・ノース社が報告書を発表



イヌイット・ヌナングット地域の廃棄物問題を解決する時期が来ている。イヌイット・ヌナングットのコミュニティが直面している課題には、廃棄物の分別が限られている、または行われていない、家庭ゴミの野焼き、標準以下の施設などがある。また、気候変動によって、海岸浸食、海面上昇、永久凍土の融解がもたらされ、廃棄物が生態系に入り込む恐れが高まっていると報告書では述べられている。

記事参照：Waste management in Inuit Nunangat needs major fixes, says Oceans North report - ArcticToday(Arctic Today 2021.4.6)

←Birds congregate at the landfill in Cambridge Bay. It's one of the few Nunavut waste management sites which has been upgraded although open burning still takes place. (Jane George / Nunatsiaq News)

北極点に到達可能、新型砕氷船を建造へ 新航路の調査も



海洋研究開発機構（JAMSTEC）は、温暖化が極めて早いペースで進む北極海を観測する新型の砕氷船「北極域研究船」を2021年度から建造する。南極観測船「しらせ」に近い大型船で、これまでできなかった冬季の観測や北極点への到達が可能になる見通しである。

記事参照：北極点に到達可能、新型砕氷船を建造へ 新航路の調査も：朝日新聞デジタル (asahi.com)(朝日新聞デジタル 2021.4.11)

アイスランドのCarbFix社、ヨーロッパの他の地域で発生した炭素を貯蔵する計画



アイスランドの地熱発電所から排出される二酸化炭素を貯留する技術を持つCarbFix社は、ヨーロッパの他の地域から二酸化炭素を輸送し、地下に貯留することを計画している。洋上ではなく陸上で行われる欧州初の大規模な地中貯留プロジェクトである。

記事参照：Iceland's CarbFix plans to store carbon from elsewhere in Europe - ArcticToday (Arctic Today 2021.4.27)

アラスカの北方林が大規模な火災に見舞われても、落葉樹が炭素損失にブレーキ



アラスカ内陸部で最近焼失した黒トウヒの森が再生し始めると、トウヒに混じってアスペンや白樺の木が増えることが発見された。
記事参照：As extreme fires transform Alaska's boreal forest, deciduous trees put a brake on carbon loss - ArcticToday (Arctic Today 2021.4.20)

北極圏での大規模な流出事故から10ヶ月、検査官はノルニッケル社の貯油施設での更なる事故を恐れている



昨年春にノリリスク社の施設で大規模な流出事故が発生しましたが、今般のノルニッケル社の子会社で行われた抜き打ち検査では、同様の事故が起きる恐れがあると懸念されている。

記事参照：Ten months after a giant Arctic spill, inspectors fear more accidents at Nornickel's oil tank farms - ArcticToday (Arctic Today 2021.4.27)

米国最高裁はCOVID-19救済問題でアラスカ先住民団に同情的な見解を示す



米国最高裁判所の判事たちは月曜日、「2020年コロナウイルス救済法」に基づいて部族政府に提供される資金を巡る裁判で、連邦政府のCOVID-19救済資金を公式に先住民政府に認定されていない先住民企業に提供することに同情的な見解を示した。

記事参照：US Supreme Court sympathetic to Alaska Native corps in COVID-19 aid dispute - ArcticToday (Arctic Today 2021.4.20)

気候変動が北極圏における抗生物質耐性拡散の脅威に



アラスカをはじめとする北極圏の気候の温暖化は、人や動物、生態系に新たな健康・安全上のリスクをもたらしている。また、人間活動の活発化と永久凍土の融解によって、北極圏で抗生物質耐性が更に拡散してしまうリスクが高まっている。

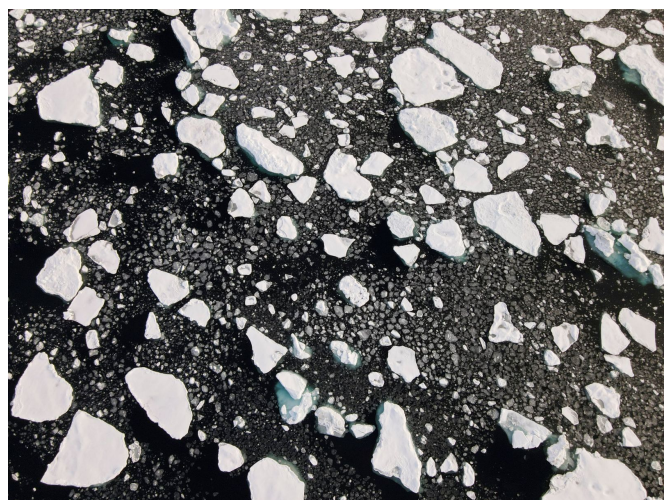
記事参照：Climate change threatens to spread antibiotic resistance in the Arctic - ArcticToday (Arctic Today 2021.4.29)

バレンツ海の海氷減少がヨーロッパの冬の異常気象にどのように影響したか



欧州北極圏にあるバレンツ海の海氷が劇的に失われたことで、海洋生態系に大きな変化が生じ、アトランティフィケーションと呼ばれるプロセスが引き起こされた。かつて氷に覆われていた海域が大西洋の一部へと変化し、その結果、海洋哺乳類や海鳥の生息地の移動が生じている。そして今、温暖化したバレンツ海の海水温が、ヨーロッパの異常気象を引き起こしていることが明らかになりつつある。

記事参照：How Barents Sea ice loss contributed to extreme winter conditions in Europe - ArcticToday (2021.4.19/ARCTIC TODAY)



↑An aerial view of floating ice in the Arctic Ocean, on September 15, 2020, the date sea ice reached its minimum extent for the year. (Natalie Thomas / Reuters File Photo)

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。今回のVol.1は、2021年4月のニュースを主に掲載しています。



Arctic Challenge for Sustainability II

